

一般会計決算審査特別委員会会議録

- 1 日時 令和6年9月26日(木曜日)
開会 午前 9時59分
閉会 午前10時14分
- 2 場所 第1委員会室
- 3 出席又は欠席した委員の氏名
(出席) 別紙のとおり
(欠席) 別紙のとおり
(その他出席者) 議長 村木理英
- 4 職務のため出席した議会事務局職員の職氏名
議会事務局長 西村佳子 同次長 宇野裕
同主幹 日笠哲宏 同議事係主任 東宗利
- 5 説明のため出席した者の職氏名
市長 片岡聡一 副市長 中島邦夫
政策監 難波敏文 総合政策部長 梅田政徳
総務部長 内田和弘 市民生活部長 平田壯太郎
文化スポーツ部長 林直方 保健福祉部長 横田優子
産業部長 西川茂 建設部長 河田秀則
環境水道部長 三宅伸明 教育長 久山延司
教育部長 江口真弓 消防長 中山利典
代表監査委員 風早俊昭 監査委員 三宅啓介
財政課長 岡真里 総務課長 小川修
- 6 付議事件及びその結果
認定第1号 令和5年度総社市一般会計歳入歳出決算認定について
認定すべきである。
- 7 議事経過の概要
別紙のとおり
- 8 その他必要な事項
別紙のとおり

別紙

出席した議員の氏名

議席番号	氏名	出欠
1	山名正晃	出
2	太田善介	出
3	荒木将之介	出
4	小野耕作	出
5	森安健一	出
6	仁熊進	出
7	山田雅徳	出
8	溝手宣良	出
9	三上周治	出
10	萱野哲也	出
11	三宅啓介	監査委員

議席番号	氏名	出欠
12	岡崎亨一	出
13	深見昌宏	出
14	小川進一	出
15	高谷幸男	出
16	小西利一	欠
17	津神謙太郎	出
18	村木理英	議長として
19	頓宮美津子	出
20	加藤保博	出
21	山口久子	出
22	剣持堅吾	出

欠席した議員の氏名

小西利一

開会 午前9時59分

○委員長（頓宮美津子君） これより、一般会計決算審査特別委員会を開会いたします。

ただいまの出席19名であります。欠席1名であります。なお、欠席者のうち、小西利一委員より欠席の届出がありました。

それでは、認定第1号 令和5年度総社市一般会計歳入歳出決算認定についてを議題といたします。

本件に対し、分科会委員長の報告を求めます。

まず、総務生活分科会の審査結果について委員長の報告を求めます。

総務生活分科会委員長、山田雅徳君。

○総務生活分科会委員長（山田雅徳君） ただいまから、認定第1号 令和5年度総社市一般会計歳入歳出決算認定についてのうち、総務生活分科会に分担されました部分の審査経過を御報告申し上げます。

審査経過についてであります。委員から「シティプロモーション委託料について、内容はどうか」との質疑があり、当局から「市の魅力発信、また移住・定住をメインテーマにしたプロモーションであり、委託先からの企画提案により、お笑いコンビ蛙亭に出演いただき、人口増につながるよう、「鬼でも住めるまち総社」というキャッチフレーズで動画を作成した。約70秒の動画であり、本市が子育て王国を掲げ、子育て支援が充実していること、また障がい者雇用や外国人に対し優しいまち、誰でも安心して住めるまちであるとか、特産品のフルーツなども紹介しながら、田舎と都会が融合した暮らしやすいまちというところをアピールした」との答弁がなされました。続いて、委員から「井原鉄道経営基盤整備補助金について、令和4年度に比べ増額しているが、今後も増額されていくのか」との質疑があり、当局から「令和5年度の増額分については南海トラフ地震に備えた耐震補強工事によるものであり、令和5年度から5箇年計画で行われている。耐震工事で総社市の負担は約800万円の増額となったが、5箇年計画であるので、その期間内はおおむね毎年度800万円は上乘せされることになる」との答弁がなされました。次に、委員から「消費生活対策経費について、令和5年度において総社市内で詐欺等の被害状況や対応件数についてはどうか」との質疑があり、当局から「消費生活センターに相談があった件数は、令和5年度で290件であった。令和4年度は270件であったため、20件増加している。相談内容では、通信販売でのトラブルが86件と最も多く、次いで店舗の商品を買ったが思っていたものと違っていたというような相談が50件、電話勧誘に関するものが25件であった。実被害としては、80代の高齢女性が警察官を名取る者にキャッシュカードをだましとられ120万円の被害にあったり、50代女性がFX投資名目の詐欺で780万円をだまし取られたという話を聞いている。実被害も出ている中で、電話等で相談があったものについては対応方法を示すことで被害を未然に防いだというケースも多くあった」との答弁がなされました。次に、委員から「地域づくり自由枠交付金について、予算が400万円程度未執行となっているが理由は何か」との質疑があり、当局から「地域一元化支援準備金など

に対する予算として計上していたが、事業が実施されれば執行できる内容のものであり、各協議会において事業実施がなかったため執行残となっている」との答弁がなされました。次に、委員から「河川用監視カメラ設置委託料として400万円程度執行されているが、こういったところに設置したのか」との質疑があり、当局から「榎谷川鸚鵡橋と作原排水ポンプピット、砂古ゲート、軽部川軽部神社付近、足守川鬼ノ城橋の5箇所を設置した」との答弁がなされたところであり、本件のうち本分科会に分担された部分については、全員一致で認定すべきであると取りまとめることに決定いたしました。

以上で、本分科会の報告を終わります。

○委員長（頓宮美津子君） 次に、文教福祉分科会の審査経過について委員長の報告を求めます。

文教福祉分科会委員長、溝手宣良君。

○文教福祉分科会委員長（溝手宣良君） ただいまから、認定第1号 令和5年度総社市一般会計歳入歳出決算認定についてのうち文教福祉分科会に分担されました部分の審査経過を御報告申し上げます。

審査経過についてであります。委員から「ヤングケアラー支援について、その家庭が抱える根本的な問題を解決するような支援が必要であり、こども課だけでなく重層的支援体制を考えた支援となっているのか。以前、学校で生徒にアンケートを取ったが、その後どうか。新たな掘り起こしをしているのか」との質疑があり、当局から「アンケートは令和3年度に実態把握ということで学校が実施したものだが、その後も学校では教育相談等で面談し、相談を受けている。また、ヤングケアラーコーディネーターがスクールソーシャルワーカーとの定例会に参加し情報共有しており、地域の方への啓発活動も強化し、地域全体でヤングケアラー支援を強化している。教育部、保健福祉部、吉備医師会、児童相談所などの連携機関と協働した会議を持ち、定期的に経緯を見守りながら、いろいろな面から掘り起こし、その家庭やお子さんに必要な支援が届けられるよう取り組んでいる」との答弁がなされました。また、委員から「小児医療費について、中学校3年生まで無償化となったが、この医療費の伸びをどう考えるか」との質疑があり、当局から「前年度より約7,000万円の増額となっている。中学生の通院費を完全無償化するため、当初1,500万円の増額を見込んでいたが、その他の約5,500万円の増額は特殊要因によるものと考えている。新型コロナウイルス感染症が5類に移行されたことにより医療費の一部が自己負担になったこと、またインフルエンザが通年流行したこと、その他の感染症も軒並み前年度より多かったことで医療費の伸びが非常に高かった。また、調剤費も増えており、医療技術の進歩も医療費増加の要因と見込んでいる」との答弁がなされました。また、委員から「ひとり親家庭の相談件数等が増えているが、母子父子自立支援員は1名の配置で足りているか」との質疑があり、当局から「令和5年度は相談件数が非常に高くなっているが、こども課に配属の総社市社会福祉協議会からの交流職員の社会福祉士や家庭児童相談員とも一緒に訪問したり、母子父子自立支援員が不在の場合にはケースを把握している家庭児童相談員が対応している。令和6年度からは、ヤングケアラーコーディネーターも相談、訪問

に入っている。こども課だけで終了するケースはほとんどないことから、生活困窮支援センター、生活保護の関係、学校や医療機関等、関係機関との連携を密にして対応している」との答弁がなされました。また、委員から「がん患者医療用ウィッグ等購入費の助成について、利用者は何人か。広く市民の方に使っていただけるよう広報活動等したのか」との質疑があり、当局から「ウィッグについては25件、乳房補正具は3件であった。年々利用者が増えている状態であり、市民の方が必要としている補助と考えており、適切に広報していきたい」との答弁がなされました。また、委員から「小学校費の感染症対策事業の執行率が約45%となっている。国庫補助金を有効に活用して空気清浄器の購入に充てると記載があるが、これで各学校の感染リスクを最小限にする施策が終了した。どの学校も同じようにできたということか」との質疑があり、当局から「この補助金の対象事業は、通常時の効果的な換気対策に関わるもの、感染拡大時の学校閉鎖の際に教育活動を継続するための体制整備に関わるものの2種類あり、それぞれ半分の割合で各学校に交付されたものである。しかし、学校閉鎖となるような感染拡大はなかったため、その分の予算執行はできなかった。児童数に応じて各学校への交付額が異なるが、その中で補助対象として買えるものを各学校が判断して購入したものである」との答弁がなされました。また、委員から「給食費等支援金について、支給対象はどういう子どもたちか」との質疑があり、当局から「昨年9月から小・中学校の学校給食費の無償化を行うとともに、未就学児のいる保護者を対象に給食費相当額の支援金を支給した。市内の小・中学校で学校給食を食べているお子さんについては無償になるが、市外の学校に通われている方、また市内の学校でもアレルギーの関係等で給食を食べていない方など、市内で提供する学校給食を食べていない方を対象に、不公平がないように給付したものである」との答弁がなされたところであり、本件のうち本分科会に分担された部分については、全員一致で認定すべきであると取りまとめることに決定いたしました。

以上で、本分科会の報告を終わります。

○委員長（頓宮美津子君） 次に、産業建設分科会の審査経過について委員長の報告を求めます。

産業建設分科会委員長、三上周治君。

○産業建設分科会委員長（三上周治君） ただいまから、認定第1号 令和5年度総社市一般会計歳入歳出決算認定についてのうち産業建設分科会に分担されました部分の審査経過を御報告申し上げます。

審査経過についてであります。委員から「動物愛護事業について、マイクロチップ装着の補助金を当初150件分計上していたが、30件の実績になったことについて何か分析をしているか」との質疑があり、当局から「令和4年10月に開始した事業であるが、以前からマイクロチップの装着をする意思があった買主についてはおおむね補助を受けており、現在は新たに飼い始めた飼い主で装着の意思がある方が補助を受けていることが要因であると考えている。ただ、市としても、市内の動物病院へのチラシ配布や広報紙への掲載など、これから広報に力を入れて取り組んでいきたい」との答弁がなされました。次に、委員から「有害鳥獣対策事業で、イノシシの捕獲数が少ない理由

は何か」との質疑があり、当局から「捕獲数が多い年の翌年の捕獲数は少なくなるという傾向があり、見込みより少なくなったためである」との答弁がなされました。次に、委員から「先進的技術支援事業補助金について、具体的にどういったことを行ったのか。また、執行率が半分ほどになった理由は何か」との質疑があり、当局から「主に桃の生産組合がカラスの被害に対応するために、カラスの嫌う音等を流すシステムを導入する費用の補助を行った。執行率については、要望を受けていたものの、生産組合の金銭的負担もあることから、実際の導入に当たり希望数が減ったため、このような執行率になった」との答弁がなされました。次に、委員から「橋梁改築事業（繰越明許分）について、地元協議により不施工となっているが、これは地元が不要といったためか」との質疑があり、当局から「久米と黒尾の境にある場所で、久米地区の土木担当員から要望が出てきたため測量に行ったが、黒尾地区の土木担当員から広げないよう要望があった。地元で協議をしていただき、その結果、要望が取り下げられたため、不施工となったもの」との答弁がなされました。次に、委員から「用途地域の見直しについて、全体を見直したのか、一部特定地域を見直したのか」との質疑があり、当局から「都市計画区域全体の用途地域の見直しを実施した。今後、県と協議する予定である」との答弁がなされたところであり、本分科会に分担された部分について取りまとめを行ったところ、全員一致で認定すべきであると取りまとめることに決定いたしました。

以上で、本分科会の報告を終わります。

○委員長（頓宮美津子君） 以上をもって、分科会委員長の報告は終わりました。

これより、ただいまの分科会委員長報告に対する質疑に入ります。

質疑はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（頓宮美津子君） ないようでありますので、これをもって分科会委員長報告に対する質疑を終結いたします。

これより、討論に入ります。

討論はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（頓宮美津子君） これをもって、討論を終結いたします。

これより、本件を採決いたします。

本件は認定すべきであると決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（頓宮美津子君） 御異議なしと認めます。

よって、本件は認定すべきであると決定されました。

この際、お諮りいたします。

委員長審査報告書並びに委員長報告の作成につきましては委員長に御一任願えますか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（頓宮美津子君） 御異議なしと認めます。

よって、一任と決定いたしました。

以上をもちまして、本特別委員会に付託されました案件は審査を終了いたしました。

これをもって、一般会計決算審査特別委員会を閉会いたします。

閉会 午前10時14分

総社市議会委員会条例第30条第1項の規定によりここに記名押印する。

一般会計決算審査特別委員会委員長 頓宮美津子